

「消化器超音波内視鏡ハンドブック」

藤田保険衛生大学教授・内科学 中澤 三郎 編集

千葉大学助教授・光学医療診療部長

神 津 照 雄

中澤三郎教授編集の本書を休日を利用して読ませていただいた。本書を開き、初めに感じた印象は実に読みやすいことである。その理由は序でも述べているように各項目が2行から3行の簡条書き式で区切られ、そして連続性のある文章構成となっているからであろう。

さて内容についてみると、超音波とは何かの基礎知識の解説から始まり、電子機器の取り扱い、超音波内視鏡の検査法までの総論がわかりやすく記述されている。特に初めて超音波内視鏡の機器を手にとり検査を行おうとする医師あるいは機器のメンテナンスを行おうとする者にとっては、すぐに役立つ内容である。機器の説明も現在市販されているそれぞれのメーカーの機種の特徴が記述されている。

各論では各臓器ごとに通常の超音波内視鏡と細径超音波プローブの操

作と読影の仕方が理解しやすいシェーマを中心に記述されている。その記述内容が心憎いほど親切である。普段なにげなく経験的に行っている操作の細かい点が言葉として、理論のもとに順序よく記載されているからである。それは超音波内視鏡がわが国で使用されるようになり、それぞれの臓器の specialist が、試行錯誤のうえ、日々作り上げてきた経験に裏づけられた手技であるがゆえ、説得力のあるものである。超音波内視鏡の新しい展開としては3次元画像の意義、超音波内視鏡下穿刺が取り上げられており、現時点における消化器超音波内視鏡のすべてが網羅されている。

本書通読の後の印象として、全体を通じて中澤教授門下の総結集による実践書と理解できる。多くの執筆者が携わったにもかかわらず、全体にバランスのとれた完成された書で

ある。1つの書を世に出す以上、そこには編集者の意気込みが伝わらなければならない。さりげなく21世紀への懸け橋になればと序で述べられているが、長年、超音波内視鏡に情熱を持ち、消化器病学の1つの大きな分野へと発展させた中澤教授の情熱を感じさせる書である。

冒頭でも述べたが本書は正しく初心者から専門医に通用するハンドブックである。超音波内視鏡の領域も更に専門分野に細分化してきており、本書の目次を開きながら、それぞれの領域を改めて再読し、歴史や詳細な手技のコツを確認し、整理するには最良の書と言える。

● A5 頁240 図141 写真46 表7 1997 定価(本体4,700円+税) 円400

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)